

都会と山里との架け橋という、結。



火の国阿蘇の
恵みのブランド

然 zen A s o C i t y

水の音は、なぜか人のこころを穏やかにする。
母の羊水に抱かれていた記憶なのかもしれない。

静かな里に廃校となった旧女学校(洋裁学校)の
木造校舎が残り、周囲にあふれる清い水。

木下英夫さんが想いを通わせた一角だ。

「もともと水が好きです。水と関わる第二の人生を求めています」
そして、この一角と出会った。

店名の「結」は共同体の絆を意味する語だが、

木下さんにはもうひとつの気持ちがこめられている。

「都会と山里との架け橋という、『結』です」

素朴な水景色と、湧水で晒した白玉団子が名物となっている。

「過剰な手を加えないことをいちばんのサービスと……」
その姿勢は人びとのこころに響いた。

どうしてこんなにほっとするのでしょう、

と訪問客は空を仰ぎ、水音に耳を傾ける。

湧水かんざらしの店結 木下英夫

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。